

## 横浜と伊豆を結ぶ観光列車の名称・デザインが決定！

～美しさ、煌めく旅「THE ROYAL EXPRESS」～

列車運行開始にあわせて、横浜駅カフェ・ラウンジ新設や、下田東急ホテルリニューアルを実施

伊豆急行株式会社  
東京急行電鉄株式会社

伊豆急行株式会社(以下、伊豆急行)と東京急行電鉄株式会社(以下、東急電鉄)は、2017年夏から運行開始を予定している横浜と伊豆エリアを結ぶ新たな列車の名称を、「THE ROYAL EXPRESS」(以下、本列車)に決定するとともに、車両デザインを決定しました。

エクステリア(外観)は、列車の名称でもある「ROYAL」をイメージした「ロイヤルブルー」をベースとし、インテリア(室内)は、客車・食堂車・多目的車など、車両ごとに用途やデザインが異なり、乗車そのものに旅の楽しさを感じていただけるような車両デザインとしました。

また、名称・デザインの決定にあわせ、本列車をイメージしたテーマ曲も制作しました。車内では、お食事中に、音楽の生演奏も予定しており、音楽を通じてご乗車の思い出となるような演出をお楽しみいただけます。

また、本列車の運行にあわせて、横浜駅では、お客さま専用ラウンジの設置を計画しています。伊豆急下田駅では、駅前から寝姿山自然公園に向かう下田ロープウェイ寝姿山山頂駅の改修を計画しているほか、下田東急ホテルでは、2017年3月のリニューアルオープンを目指して、客室・レストラン・ロビーなどの改装工事を実施しています。

伊豆急行および東急電鉄は、本列車を通じて、世代を超えたひとりひとりのお客さまに憧れを持っていただける豊かな時間の過ごし方を提供し、記憶に残る旅をお手伝いすることで、伊豆半島の魅力を国内外に発信していきます。

「美しさ、煌めく旅。」——目的地に向かうための乗車ではなく、乗車したときから旅の始まりと美しさを感じる心が煌めきだし、お客さまひとりひとりの記憶に残り、憧れの旅へとつながる。世代を超えたふれあいやオンリーワンの体験と感動が、「THE ROYAL EXPRESS」での旅と調和し、何か懐かしく、つねに新しい伊豆の魅力がお客さまの想像力をかき立てます。

なお、運行日や具体的な車内サービス内容の詳細は、決まり次第お知らせします。  
詳細については、別紙をご参照ください。

### ■「THE ROYAL EXPRESS」概要

開始時期 : 2017年7月(予定)  
運行区間 : JR横浜駅～伊豆急下田駅  
編成 : 8両編成・約100名



THE ROYAL EXPRESS

シンボルマーク・ロゴ

©ドーンデザイン研究所

以上

## 【別紙】

### 1. 列車名称 「THE ROYAL EXPRESS」

「煌めく伊豆。美しさ感じる旅。」を実現するべく、  
「伊豆の素晴らしい魅力を、さらに感じて頂けるような、気品と特別感のある観光列車にしたい」という思いを込めました。

### 2. シンボルマーク・ロゴ

シンボルマークは、「ROYAL」の「R」を伝統的なセリフ(※)がついた形とし、水資源が豊かな伊豆半島イメージから「水滴」をデザインし、その上に王冠を組み合わせたデザインとしました。

ロゴタイプにもオーソドックスなクラシック書体を用いることで、視認性を高め、本列車の品格を表現しました。

(※) 線の端にある小さな横線やひげのような飾り



THE ROYAL EXPRESS

© ドーンデザイン研究所

### 3. 車両デザイン

#### (1) デザイン・設計

どんな旅をデザインすれば感動体験に出会えるかを求めて、色・形・素材・サービスを吟味し練り上げます。そして、それらを最大限に生かした懐かしくて新しくクラシックな空間の中で、美しい、煌めきの旅を演出できるデザインを目指しています。

#### (2) エクステリア(外観)

伊豆半島は、水平線を望む広大かつ透き通るような海の“碧”、変化に富む地形が織り成す高原や豊かな山々の“青”と、さまざまな“あお”に恵まれた半島であり、列車の名称でもある「ROYAL」のイメージから古代より高貴な色とされてきた「ロイヤルブルー」をベースとして、金色のラインをアクセントにしています。



© ドーンデザイン研究所

#### (3) インテリア(室内)

普遍性を持った機能美を追求すると同時に地域のアイデンティティを洗練された形で表現しています。

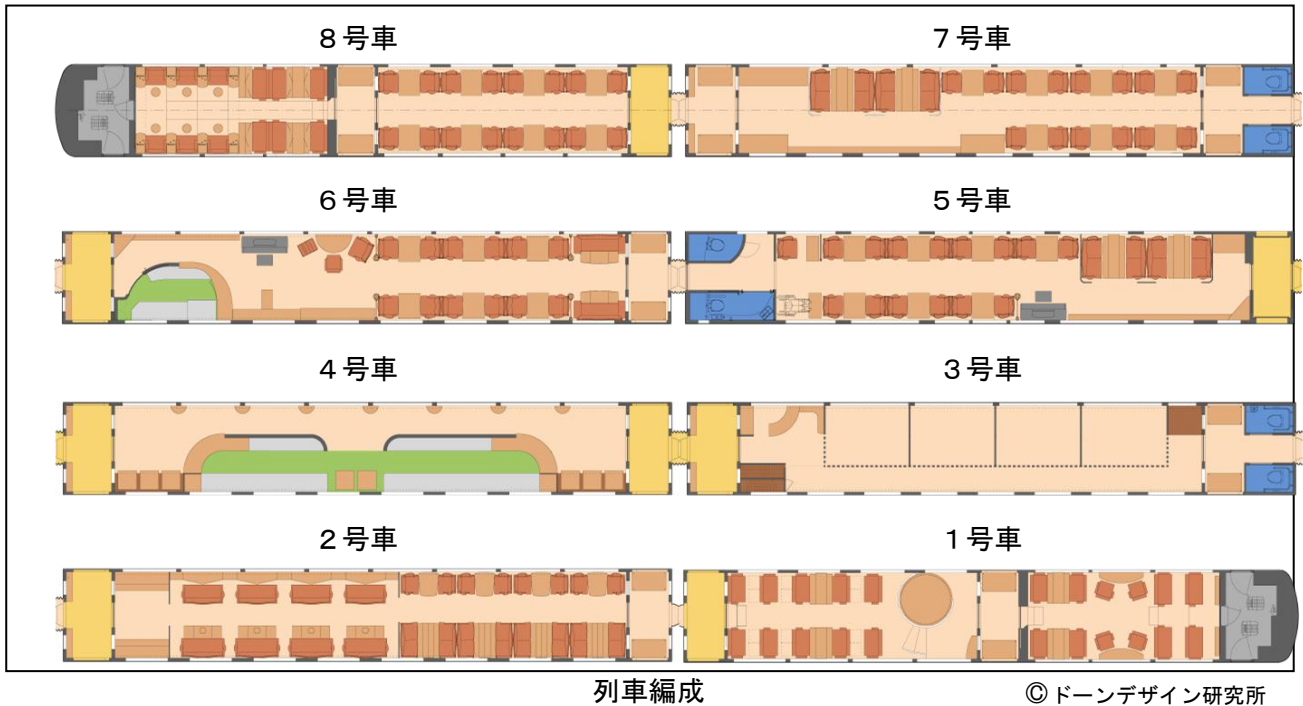
車両ごとにデザインが異なり、先端技術から生まれる素材や工法に、伝統的な素材や職人の技を組み合わせ、最高の素材と技術の粋が散りばめられた空間は人々に感動を与える舞台となります。



© ドーンデザイン研究所

#### (4) 列車編成

全8両編成の車両で伊豆急下田方が1号車となり、1・2・7・8号車が客車となります。3号車はマルチスペースとして、これまでの観光列車の概念をくつがえすような車両の設計を行っており、ミニコンサートの開催や、結婚式や会食、展示会、商談などパーティション(可動壁)で区切ることのできるさまざまな活用が出来る車両となる予定であり、4号車にはキッチンカー(仮称)を設置する予定です。



#### 4. 車内での音楽演出

本列車の特徴の1つは、「音楽」で、旅のシーンを彩ることです。列車内での生演奏だけでなく、音楽で列車の魅力、伊豆の魅力を発信し、また伊豆地域を元気にするさまざまな取り組みを「音楽」を通して行っています。

そして、今回ヴァイオリニストの大迫淳英氏のプロデュースで、「THE ROYAL EXPRESS」のテーマ曲を制作しました。テーマ曲を演奏する大迫淳英氏は、本列車の音楽演出で旅の魅力をプロデュースする予定です。

##### <大迫 淳英氏 ヴァイオリニスト>

サウンドクルーズコンサートを展開。

「旅と音楽」をテーマに、「観光ツール」として、

また「地域振興のプログラム」として機能する作品をプロデュース。

詳しい情報は、<http://jun-ei.jp>





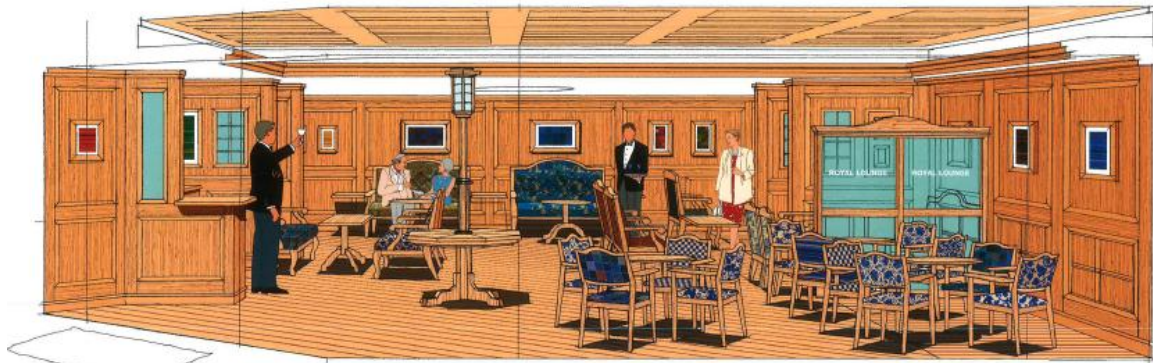
## 5. 本列車の運行開始に合わせた施策

### (1) 横浜駅カフェ・ラウンジおよび下田ロープウェイ寝姿山山頂店舗施設の改修

本列車の発着駅となる横浜駅にカフェ・ラウンジの設置を計画します。さまざまな旅の出発点として、一般の方も利用できるカフェを設置するとともに、「THE ROYAL EXPRESS」の運行日には、カフェに隣接するラウンジを本列車にご乗車のお客さま専用ラウンジとしてご利用いただき、旅の始まりのひとときに彩りを加えます。

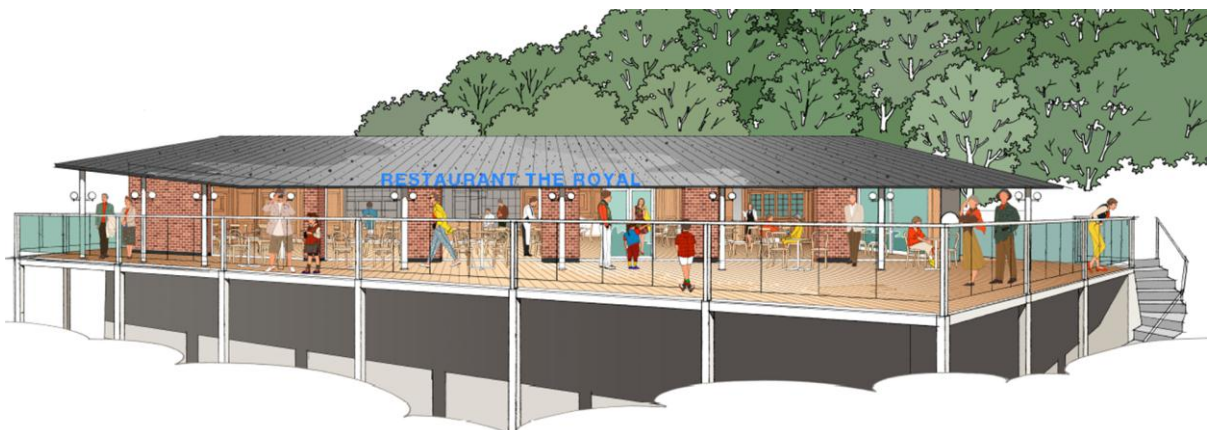
一方、伊豆急下田駅周辺においては、下田ロープウェイ寝姿山山頂店舗施設の改修を計画します。快適な飲食スペースに改修し、寝姿山自然公園からの素晴らしい下田湾の景色をより快適に堪能いただけるようにします。

なお、これら施設のデザイン、設計についても、ドーンデザイン研究所水戸岡鋭治氏が担当します。



横浜駅ラウンジイメージ

© ドーンデザイン研究所



下田ロープウェイ寝姿山山頂店舗施設改修イメージ

© ドーンデザイン研究所

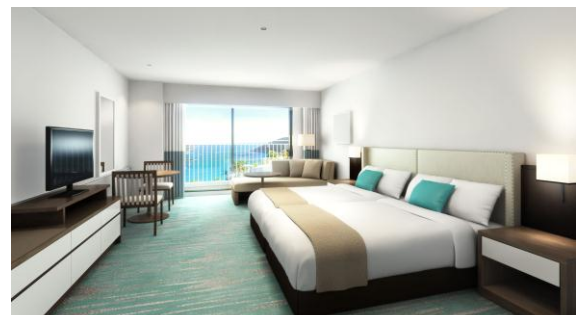
### (2) 下田東急ホテルリニューアル

本列車の運行に先だて、株式会社東急ホテルズが運営する下田東急ホテルは、現在、全館休業をして改装工事を実施しています。

開業当時から変わらぬ風光明媚な景色を最大限に生かし、お客さまの利便性・快適性を追求した空間を作ります。改装コンセプトは格式の伝承を軸とした「原点回帰」。客室・レストラン・ロビー・大浴場などの施設が生まれ変わります。(リニューアルオープン日:2017年3月17日)



レストラン完成イメージ



ツインルーム完成イメージ

## 【参考】

### <水戸岡鋭治氏プロフィール>

(株)ドーンデザイン研究所代表取締役/デザイナー

建築・鉄道車両・グラフィック・プロダクトなどさまざまなジャンルのデザインを行っています。

なかでもJR九州の駅舎、車両のデザインは、鉄道ファンの枠を超え広く注目を集め、菊池寛賞・毎日デザイン賞・日本鉄道賞・ブルネル賞といった多くの賞を受賞しています。主なデザイン作品に、クルーズトレイン「ななつ星in九州」、九州新幹線800系、787系をはじめとしたJR九州の特急車両や、「或る列車」などのD&S(デザイン&ストーリー)列車、JR博多シティ、JRおおいたシティ、肥薩おれんじ鉄道「おれんじ食堂」、しなの鉄道「ろくもん」、富士急行「富士山ビュー特急」、「富士登山電車」、和歌山電鐵「たま電車」などがあります。



白鳥真太郎撮影

### <東急電鉄と伊豆急行線の関わり>

東急電鉄の五島慶太会長は、1953年に伊豆観光開発構想を打ち出し、1956年2月、伊東一下田間地方鉄道敷設免許を申請しました。

地元の方々にとって、鉄道敷設は、明治以来の悲願であり、下田では「伊東・下田鉄道敷設促進下田同盟会」が結成され、鉄道敷設の実現に下田全住民一丸となって邁進しました。

その結果、1959年2月、免許申請から3年が経ち、待望の鉄道敷設免許が交付されました。

鉄道敷設の認可を受け、1959年4月、東急電鉄は「伊東下田電気鉄道(株)(伊豆急行の前身)」を設立し、1960年1月に鉄道建設の起工式を挙りました。

その後、1961年2月、社名を「伊豆急行株式会社」に変更。工事は、31カ所にものぼる隧道工事や困難な用地買収などにもかかわらず、2年を要せず竣工し、1961年12月10日に全線開通しました。

以 上